

一吟徹心霊
一曲能興国

錦友…第300号

(令和2年1月1日)

・編集・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
・発行・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
東京都港区麻布十番2-4-14
電話:東京03-5484-3301(代)
〒106-0045



会長 城戸城濤

令和二年の新春を寿ぎ
併せて会誌「錦友」の三百号を祝う

一般社団法人詩吟朗詠錦城会

令和も2年目を迎え、いよいよ元号「令和」の名に恥じぬ、清らかで美しく、そして平和で和やかな良い年となる事を願わずにはいられません。

昨年、5月に新元号となり、

謹んで年頭のご挨拶を

申し上げます

本年も変わらぬご指導、ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

令和二年 元旦

詩吟朗詠錦城流 宗家 山元錦城
(一社) 詩吟朗詠錦城会 会長 城戸城濤

夫々に新たな希望を抱いて出発した事と存じますが、此のころ毎年のように自然災害の猛威に晒され、殊に昨年は信州から関東以北にかけて台風と大雨による被害が相次ぎ、我が錦城会

も福島県本部の会員10人が床上、床下浸水、車両や耕運機が水没するなどの大きな被害を受けられました。

被害を受けられた皆様には心よりお見舞い申し上げますと共に、全国の会員の皆様には総本部よりの呼びかけに答えて頂き、お見舞金を贈ることが出来ました事を感謝申し上げます。

6月には、山元城雄前事務局長の訃報に接し、吟詠に琵琶歌にその才能を遺憾無く発揮されていた頃を思い、残念の極みでありました。葬儀にご参列下さいました皆様には厚く御礼申し上げます。

相沢英之当会顧問も同じ月に亡くなられ、宗家と共に別れ

の会に出席してまいりましたが、麻生太郎当会顧問が弔辞を読まれ、ご高齢とは言え、長い間当会を温かく見守ってくれた顧問のご冥福をお祈り申し上げます。

6月は、毎日曜日には催しが有り、2日には、滋賀県の守山支部(50周年) 瀬田支部(35周年) 甲西(25周年) 湖南石部道場(発会記念)の合同大会。9日は、草津(45周年) 信楽(40周年) 栗東(25周年)の合同記念大会。16日は、日本琵琶楽協会の60周年記念大会並びに懇親会。23日は当会の総会が東京、御台場で開催され、30日は、滋賀県日野(45周年) 蒲生(35周年) 水口(30周年)の合同記念大会という過密振りでした。滋賀県本部は当会で一番会員の多い県ではありますが、周年記念大会がこのように凝縮されるのは驚きでした。5年後は、私の次の会長のためにも、同じ月に記念大会が開催されることのないよう、よくご相談されるよう希望します。

さて昨年の全国大会は、当会65年の歴史の中で初めて静岡県静岡市に於いて開催されました。一昨年、水戸市での全国大会開催直前に、渡邊城鎮静岡県前本部長が急逝されるという事態の中、塩澤新本部長を中心に会員の皆様が一致団結して開催にこぎ着け、近隣県の皆様のご協力も得ながら盛会裏に無事終了できました事に安堵しております。

県本部大会も二カ所で開催され、10月14日の鹿児島県本部大会は阿久根市に於いて開催され、地方都市での開催も会場も立派で、お客様も大勢入られ将来の会員増に結び付くことを願っております。

12月15日は、佐賀県本部大会がこれも小城市での開催という事で楽しみにしているとあります。(この原稿を書いている頃は、開催の約一カ月前)。

最後に、本号を以て三百号の節目を迎えた錦友ですが、これは只々歴代編集担当者的ご努力の賜物であり、感謝の言葉しかございません。今後とも「錦友」が会員相互の心の拠りどころとして末永く継続発行されることを願っております。

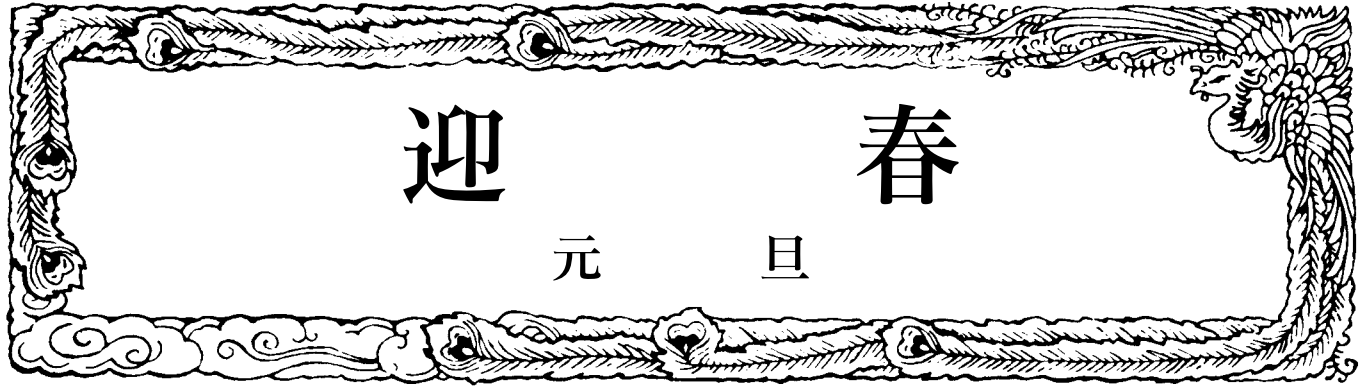
皆様にとり、本年が実り多い年となりますようお祈り申し上げます。

◆錦友発行300号記念・師範吟詠発表会
2月27日(木) 28日(金)
からすま京都ホテル

◆催事のご案内◆

(令和2年1月1日～2年3月)

◆本会主催 ◆本会后援



顧問
(順不同・敬称略)

衆議院議員 麻生 太郎

元衆議院議員 久間 章生

筑前琵琶橋流日本橋会会長 橋 旭宗

二松学舎大学顧問 石川 忠久

(株)日本文化チャンネル桜社長 水島 総

会長 城戸 城濤

相談役 山元錦城(東京) 理事

最高諮問委員 石原錦紫(神奈川) 同

丸山城壮(神奈川) 同

高橋城伸(広島) 監事

山元錦嶸(東京) 同

村瀬城博(愛知) 参与

金子城大(埼玉) 同

草薨城輝(東京) 同

本村錦香(鹿児島) 同

土師城皓(神奈川) 同

高羽城幹(神奈川) 同

佐藤錦杲(神奈川) 同

今井 勝(東京) 同

東本錦怜(福岡) 同

村山城機(東京) 同

古賀城暎(佐賀) 同

西川錦洸(広島) 同

竹崎錦里(道南) 同

石橋城佑(福島) 同

遠藤城啓(東京) 同

吉本城川(鹿児島) 同

堀川城怨(滋賀) 同

鍛冶錦代(愛知) 同

岡村城司(滋賀)

後藤錦曜(長崎)

林 錦枝(滋賀)

増井俊二(東京)

岩田城龍(東京)

本間城楓(道央)

藤田錦信(宮城)

海野錦麗香(茨城)

金子錦要(埼玉)

和田錦堯(東京)

石原城興(神奈川)

若月城嗣(愛知)

宮川城広(滋賀)

土田城紘(滋賀)

塩川錦晃(大阪)

沖浦城昭(広島)

山本城勘(山口)

吉澤城正(福岡)

每熊城明(長崎)

飯田城英(大分)

宮本錦鷹(宮崎)

國生城庵(鹿児島)

錦友三百号記念

「錦友」発行300号を記念して「感謝」



一般社団法人詩吟詠錦城会相談役
詩吟朗詠錦城流 宗家

山元 錦城

錦城会創設の昭和29年より、いつの間にか66年の歳月が過ぎ去りました。

「錦友」創刊は、昭和33年5月1日でしたから、私は学生生活を卒業、社会人となった年でした。

両親が行う詩吟・琵琶の道を横目に、自分の道を一人前にするべく努力をしていた時でした。

それから19年を経て44歳の時、流祖が他界（昭和52年9月25日）。理事会の決定を受けて、二代目宗家の指名を受けました。唯、長男だから、ということです。暗中模索の中、翌年、すな

わち昭和53年3月15日が「錦友」100号の発行でした。

それから約10年、池の浮き草の如く、何も出来ない根無し草のような日々があり、二代目は何が特徴なのか？特徴を出せと、また私の二足のワラジを大変批判されました。

流祖の23年間は、「錦友」100号にありますように、田中六助先生、倉成正先生、辻寛一先生、藤原哲太郎先生、立石定夫先生、櫻井義晃先生、名波倉四郎先生他、多数の顧問の先生方に支えられ、発展を続けて来られました。今はなき先生方

ですが、あらためて感謝の念を捧げたいと思います。

そして平成8年9月1日は、「錦友」200号。すでに会員皆様のお力により、錦城会館の建設計画も確定し、進行していました。この頃、私はやっと足が地についたような感がありました。これも、夏秋・大山・藤野・荒木・早田・箕浦・城戸・大塚・丸山・松尾・本村・金子・西川・他諸先生、多数の流祖のブレインの支えがあったからで感謝で一杯です。

「錦友」200号には、松永光先生、麻生太郎先生、宮崎茂一先生、櫻井義晃先生、名波倉四郎先生、橘旭宗先生のご祝辞をいただき、引き続き、会の顧問としてお力をそそいでいただきました。

平成の時代に入り、世界は新時代、科学的なすさまじい進歩の時を迎え、日進月歩、社会生活の変遷もめまぐるしく、昔の戦前までの100年の変化が、

今日は10年で来るような気がします。

人心の変化も同様、グローバル化の中、地球も狭くなり、世界の事件が瞬時に耳に入ります。また日々の生活の中にも、外国の人々と日本人の区別が付かない時代が来しました。

さて文化の面は・・・平成に入って今日まで、吟詠人口は減少の一途を進んでいきます。錦城会も同様です。常に、どうにかしなければと思いつながら、力不足です。

私もすでに後期高齢者、米寿を目の前にする年となり、元号も「令和」を迎えました。そして、「錦友」300号を迎える時となりました。「良く続いたものだ」と思うと共に、

本部の動き
元・10・6より 元・11・20まで

- 10月14日 鹿児島県本部大会 (鹿児島・出水・薩摩川内・伊集院支部55周年・阿久根支部45周年)
- 20日 日本伝統文化吟友会 吟剣詩舞コンクール
- 26日 全国決勝大会(愛知県)
- 28日 広島県本部の講習研修会と昇格審査
- 11月9日 大阪府本部の講習研修会と昇格審査

歴代編集諸氏の労を多とし、世界の平和、日本の平和を念じつつ、更に会と共に「錦友」継続の永遠ならんことを後進の方々に託し、今日までの感謝を申し上げ、締めくくりといたします。

◆新師範の紹介◆		
雅号	県名	取得日
清水錦倅	(三重県)	1・10
山内城俊	(愛知県)	1・10
松山錦凰	(北海道)	1・11
山田城宣	(北海道)	1・11
山本錦佳	(宮城県)	1・11

*前号の岩本城豊(鹿児島)さんは、岩元城豊さんの間違いでした。お詫びして訂正いたします。(S)

新入会員の紹介	
(10/12)	(11/20)

- 石山支部 國松洋子
- 緑道場 杉本かなる
- 福山御幸支部 小島宗弘
- 鹿児島支部 松島和子
- 江東支部 恩田サツ子 篠塚侑子
- 港道場 高橋ユミ
- 目黒三田道場 原めぐみ 西村良子
- 神辺支部 中塔直子 岡本順子

輝かきき言

錦友300号おめでとう！いびきをうます



詩舞道錦城流宗家 本村 緑 崇
(一般社団法人詩吟朗詠錦城会)
常務理事 本村 錦 香

錦友が果たす役割と使命感に燃え、創刊以来担当してこられた歴代の編集長はじめ編集委員の皆様のご尽力とご苦労に心から敬意を表し、深く感謝いたします。

錦城流・錦城会の歴史を語る貴重な記録は、北は北海道より南は沖縄まで会員の皆さまの吟道に懸ける熱い心、錦城流を愛する人の思い、全国各地の活動の様子、喜びや悲しみとともに共感してこられた会員相互の親睦の絆としての役割を果たしております。

昭和33年5月
山元城月先生の手がけられた
創刊に始まり

昭和53年3月100号
平成8年9月200号

綴られた錦友をめくると懐かしい思い出が甦ってきます。

錦友108号に詩舞道錦城流第1回全国大会開催の記事が目にとまりました。昭和41年1月、流祖のお許しを頂き、詩舞指導

の活動が始まり、詩舞育成にお力を賜り、53年度、宗家・山元錦城先生より詩舞道錦城流と改めて頂き、昭和54年5月13日(母の日)、鹿児島県文化センターにて、第1回詩舞道錦城流全国大会を開催。思えば、会場のロビーが、カーネーションの花一色で埋められた、あの時の様子が脳裏を巡ります。

詩舞道の記事や写真も掲載をいただき、感謝しております。詩舞道は、錦城流・流祖の吟詠に振り付けをさせていただいておりますが、浅学菲才な身にあつて、日夜研鑽に努めております。ただ、有難く思いますことは、流祖の吟詠を耳に、心に受け止めて舞ができる喜びが詩舞道会員の皆さまにはございます。

生涯、歩ける道がある幸せを全国会員の皆様と共に支え合つて進んでまいりましょう。令和2年も天命に生き、使命に燃え運命を開く年となりますよう。

錦友のあゆみ

創刊号 昭和33年5月1日発行

「錦友」は、山元城月先生、岩本東洋先生方が育成にご協力下さり、創流間もなく当時主幹であった山元城月先生が、「一吟徹心霊」「一曲能興国」の標語と共に命名されたものであり、「錦友」の題字は山元城月先生の揮毫によるものである。

創刊号は、山元城月先生がほとんど一人で作られ、2号からは、丸山城壮先生・大塚城聖先生が中心になり、3号から文化部が誕生し、初代部長に浜野城将氏、その後、椎名城虎氏、草薨城輝氏へと部長が変わっていった。

- 100号 昭和53年3月15日発行
- 150号 昭和61年12月10日発行
- 200号 平成8年9月1日発行
- 250号 平成19年7月15日発行
- 300号 令和2年1月1日発行

創刊当時、丸山城壮・大塚城聖・椎名城虎・浜野城将の各先生方が担当、60号から238号までの長きに亘り、草薨城輝氏が担当し、239号から村山城機氏が担当、287号から現在までを佐藤錦杲が担当しています。241号からは、従来のB5判からA4判となり、活字も大きくなり、大変見やすくなりました。

詩吟朗詠錦城会会報 「錦友」創刊300号を記念して



一般社団法人詩吟朗詠錦城会

副会長 金子城大

時の経つのは早いもので、錦城会の歩みとともに、「錦友」が、創刊300号を迎える事に、光陰矢の如しの感じます。創刊300号達成、誠におめでとうございます。編集に携わつて来

られた、草薨城輝先生、村山城機先生、佐藤錦杲先生他関係者の、並々ならぬ努力のお陰と感謝申し上げます。

「錦友」によって知る全国各地の行事の様子が勉強になり、

宗家の行事も手近に思われて近親感が湧き、入会者の紹介では、新しい会員を迎えて喜びを感じます。

錦友の役割は、知らない会員と知らない会員の間に有つて結びを、絆を強く保つ事にあると信じます。私は、日本伝統文化吟友会を担当しておりますので、吟剣詩舞コンクール全国大会の模様を投稿しております。出場された会員の名前を記録としても残して置きたいと思っております。今後も、400号に向けてご尽力下さいますようお願いいたします。

「いつのことだったか」



一般社団法人詩吟詠錦城会

専務理事 草 薊 城 輝

私が「錦友」の仕事に携わり始めたのは、いつのことだったのか覚えていない。

今と違って、錦城会はすべて手作りだった。「錦友」は、稽古に来た人達や内弟子によって封筒に入れたり、丸め(筒状)たりして発送していた。

世田谷支部で稽古を受けていたので、ごく自然にその作業に携わったのだろうと思う。なにせ、大掃除もお手伝いした頃の話である。

その頃は、大塚、椎名、浜野という会創設当時の錚々たる人がそろっていて、何を聞いても百科事典的知識に驚いたのを覚えてる。

その頃、「錦友」の編集と印刷は、浜野城将師が担当されていた。浜野師は、印刷所を経営されていて、そこで活字を拾うお手伝い(邪魔)をしたこともある。

そう、その近くに「バンブー」という喫茶店があり、コーヒ

をご馳走になった。

もう一つ、新宿でクリスマスツリー爆弾事件があった日、本部と一緒に仕事をしていた藤屋さんの古川さんが「新宿に美味しいおでん屋があるよ」というので、新宿に向かったら大騒動だったこともあった。

何時の時だろうか、「お前が錦友の担当者になれ」乱暴な話である。私は、小間使いはでき

編集に携われたことに感謝



一般社団法人詩吟詠錦城会

理事 村 山 城 機

二代目宗家・会長から錦友の編集をやってみないかと話をいただいたのは、定年退職した66歳の時でした。佐藤錦臈さんと

二人でということもあって、それならばと引き受けました。佐藤さんは、ご多忙で数回発行したところで編集を辞退され

錦友発行300号 〜誠に感無量〜



一般社団法人詩吟詠錦城会

最高諮問委員 丸 山 城 壮

彼の日発行者(流祖 山元錦城) 命名者(山元城月)

初代理事長(大塚城聖)と小生(丸山)3人の見守る中、第1号を手掛けましてより何十年。今日、お三方はいなくなり、私独り喜んでおります。

北の皆さん お元氣ですか?
南の皆さん お元氣ですか?
吟界の皆様 お健やかでおられますか?
心から感謝いたします。

ました。とまどいながらも、何とか続けて12年。第239号から286号まで担当しました。

忘れられない編集
273号と274号で「錦城流・錦城会六十年のみちのり」と題した特集を組みました。

273号の第一部「いまも流祖がそばに」では、流祖が昭和29年に東京に進出してから昭和52年9月に急逝されるまでの間に、折々に残した思いや言葉を掲載しました。人の和が第一と

口癖のように語りながら、流・会の発展に寝食を忘れて取り組んでこられたお姿が偲ばれます。

274号の第二部は、「二代目宗家・会長の三十五年」と題して、二代目就任後の流・会の歩みを追ってみました。

いま思うに、前任の草薊城輝さんから編集を引き継いだ当時は、毎号のように「新入会員の紹介」欄は、一ページ全部を使っても載せきれず、次号に先送りすることが多々ありました。最近号の同欄を見ると、寂しさとともに、編集者としての無力を感じます。

ただ、人生の後半に編集に携われたことに感謝しております。

錦友300号発刊に寄せて



一般社団法人詩吟朗詠錦城会
最高諮問委員 村瀬城博

「錦友」300号発刊、誠にめでたい。しかも、創刊以来62年間の続刊、実に素晴らしい事である。

私の錦城流への入門は、前回の東京オリンピックの年であり、永く継続している中で「錦友」との思い出は多い。一番に脳裏に浮かぶのは、入会して間もない頃、「錦城会に入って良かった」

との思いに浸ったことである。それは「錦友」から、流の理念、全国的な普及・運営、業績等を学んだことであつた。

錦城会の大会・研修、各地に於ける会・催し等の状況報告を中心として、盛り沢山の活動が掲載されてきた「錦友」。時代の流れの中で、時を得た充実した内容が継続している。

錦友創刊300号を祝して



協賛者(講師師)
一龍齋貞心

詩吟朗詠錦城会機関紙「錦友」創刊300号を迎えられるとの事心よりお慶び申し上げます。

私が錦城会との縁が出来ましたのは、流祖・山元錦城先生のレコード「雲流るる果てに」で朗詠を担当させて頂いたのが最初で、昭和47年の事でした。

その頃の「錦友」は、まだ65号前後だと記憶しております。

私はその後、翌48年小倉での全国大会に「平家兵船絵巻」で

城先生の会員への思いが、全国津々浦々まで足を運ばれ会員増強に全力を挙げられ、今日の隆盛になった事だと思えます。会員の増員は、組織の強化！万全な組織作りが成功し、多くの新作発表、更には発声方法、日本伝統音楽史、漢詩の研究など芸の深さを追求されておられます。

これからも、錦城会会長のものと、錦友を通じて、創設の理念を遂行され大きな成果もあげられる事を祈念申し上げます。

言葉といたします。

解説として舞台初出演、また、その年秋には「よみうりホール」で流祖のリサイタルに出演させて頂いた事が忘れられません。

以来、今日まで約50年近くもお声を掛けて頂いております。

しかし、私が出演させて頂くのは、主に全国大会や県大会などの大きな会が殆どです。そんな時に拝見する「錦友」で全国各地の支部や道場での研鑽の報告。また、会員の皆様の行かれる吟行での様子など、楽しく時には一緒に行ってみたいなど羨ましく読ませて頂いております。

私事ですが、私、役者から講師に代わって、今年で50年になります。その2年後から錦城会にお世話になっておりますので、思えば私の講師としての記録であり、歴史でもあります。

同時に、「錦友」も250号ほど読ませてもらったことになりました。そして、今回は300号。

何時の日か、皆様の吟詠の解説が出来る事と、400号を読む日を楽しみにしております。

「錦友」の創刊300号を迎えられて



協賛者(箏・尺八奏者)
竹山直樹

(一社)詩吟朗詠錦城会「錦友」の創刊300号をむかえられ

ます事を心よりお慶び申し上げます。この素晴らしい記念紙執筆のご依頼をいただき感謝申し上げますと共に、年月の経つ事の早さを痛切に感じるものでありま

す。

昭和43年、松尾城州先生との再会后、流祖・山元錦城先生始め幹部の先生方を紹介いただいたと記憶しております。それから50年が過ぎました。何故これ程までに縁が深くなったのか。

その中であつて、以前から注目されながら、近年とくに寂しい欄が「新入会員の紹介」である。年々会員が減少し、少子高齢化が進んでいる。会員増強は急務であり、如何にしたら前進があるか、大きな課題である。

錦城流の吟のすばらしさ、錦城会の全国的な普及・運営、良質な業績等、一層の広報活動が求められる。

いずれにせよ、今日まで「錦友」が継続してこられたのは、担当者の献身的な努力、全国の会員の協力の賜である。

今後更に、錦城会の歴史そのものである「錦友」の前進を願って止まない。

それは、流祖先生始めすべての先生方が、協賛の人々とも大きな気持ちで舞台を創る仲間の一員として心を許し合い、尊敬し合いながら迎えていただいた事と思えます。

流祖先生の澄み渡る声、重厚な琵琶絃の響き、切々たる诗情への思い、日本人の心をゆさぶる一瞬は、時が止まった様な感覚さえ覚えておりました。その流祖の突然のご逝去!!葬儀には多くの会員皆様の落胆、これからの不安が満ちていた事を私なりに感じました。

しかし、二代目宗家・山元錦

城先生の澄み渡る声、重厚な琵琶絃の響き、切々たる诗情への思い、日本人の心をゆさぶる一瞬は、時が止まった様な感覚さえ覚えておりました。その流祖の突然のご逝去!!葬儀には多くの会員皆様の落胆、これからの不安が満ちていた事を私なりに感じました。

しかし、二代目宗家・山元錦

城先生の澄み渡る声、重厚な琵琶絃の響き、切々たる诗情への思い、日本人の心をゆさぶる一瞬は、時が止まった様な感覚さえ覚えておりました。その流祖の突然のご逝去!!葬儀には多くの会員皆様の落胆、これからの不安が満ちていた事を私なりに感じました。

しかし、二代目宗家・山元錦

城先生の澄み渡る声、重厚な琵琶絃の響き、切々たる诗情への思い、日本人の心をゆさぶる一瞬は、時が止まった様な感覚さえ覚えておりました。その流祖の突然のご逝去!!葬儀には多くの会員皆様の落胆、これからの不安が満ちていた事を私なりに感じました。

鹿児島県本部大会

鹿児島・出水・薩摩川内・伊集院支部55周年
阿久根支部45周年

去る10月14日、詩吟の会が我が阿久根の施設「風テラス」であった。友人が詩吟・書を趣味程度に嗜んでいると聞き、外出もままならない今、人様の助けを借りて拝見しに行き、開演を待った。オーピング、十数人の琵琶と箏、いにしえの装束を纏われ奏でられる音色・・・一気に、えも言えぬ世界へと誘われた。

朗々と吟じられる発声に圧倒された。書・画・舞。とてもとても趣味程度の軽い考えではなし得ない奥深さに気付いた。研鑽に研鑽を重ねられての舞台であったのだろうと思った。

半世紀も前、友人に誘われ興味のないまま吟じられる一節だけを聴いただけであった私。若い頃の勉強不足の自分を知る夜だった。

吟じる事も、書くことも、絵書事も、舞う事も出来なくなってきたが、異次元で豊かな人生を見



オープニングの「茶絃録」

極め、謳歌なびつていらつしやる出演者の皆様へ敬意を抱くと共に、無意味な日常に心揺さぶ



られる感動を頂き、有難うございました。感謝のみです。
(阿久根市 一市民)



八日市に錦城流の吟詠六十年

八日市支部は、支部として昭和43年に発足しましたが、それより9年前の昭和34年に故山本城嶽先生が八日市にお出向きになり、錦城流の教えを始められました。

以来、諸先輩が自己研鑽と組織の運営に努力され、八日市に錦城流60年の歴史を刻んでくることができました。

60年を記念して10月20日、吟

行会を開催しました。前日と打って変わって好天に恵まれ、琵琶湖西岸沿いに、延暦寺および日吉大社の門前町として古くから栄えた大津市坂本の旧竹林院から西教寺へ。

西教寺は、明智光秀公の菩提寺であり、「本能寺」と「細川瑤子(ガラシャ夫人)」の2題を境内で大合吟して、昼食会場へ。ホテルの料理に舌鼓を打ちな

がらワイワイガヤガヤ、お楽しみ抽選会で盛り上がりは最高潮に・・・。

楽しい昼食会を終え、午後は中江藤樹先生の記念館を訪問。記念館の職員から、先生の人となりやご功績などを聞いたのち、研修室で先生作の「諸生看月」と「百忍詩」の2題を吟じ帰路に着きました。

幸せと健康長寿の秘訣は、「人と人とのつながりにある」と言われています。

会員相互の親睦をより深める事業として「近江の歴史と偉人ゆかりの地を訪ねて」の吟行会は、特別参加の瀧城隆先生はじめ28名の参加者全員が、健康長寿の一助になることを願いつつ、楽しく意義ある一日となりました。

(八日市支部長・寺村城和)



錦城会八日市支部吟行会 令和元年10月20日(日)

第28回日本伝統文化吟友会吟剣詩舞コンクール 全国決勝大会で入賞する

優勝 一般一部 打越美和子さん
 優勝 短歌一般の部 菊池慎一郎さん
 準優勝 一般三部 石原 隆夫さん
 準優勝 詩舞一般二部 藤井美由紀さん

10月13日の台風19号の通過で

関東・東海に記録的な大雨となり、甚大な被害となりましたが、10月20日日本伝統文化吟友会吟剣詩舞コンクール全国決勝大会が、愛知県津島市文化会館ホールで開催されました。

全国8地区の予選会を乗り越え、全国大会の出場権を獲得されたの出場となり、会場内の空気が、緊迫の中での大会となりました。錦城会から、9名の選手が出場しました。

詩舞・一般三部 中村妙子(広島)

審査委員に、吟詠の部は、金子城大先生、剣詩舞の部は、西川緑恵先生が当たりました。

審査の結果は、漢詩一般一部の打越美和子様が優勝、一般三部の石原隆夫様が準優勝で、一般四部の、第9位に梅村明彦様が、審査員特別賞には、木屋吉弘様、金子筑波様が、短歌一般の部では、優勝に菊池慎一郎様が入賞され、詩舞一般二部で、準優勝に藤井美由紀様が入賞しました。

打越美和子様「財団賞」を獲得する

漢詩・一般一部 打越美和子(茨城)
 漢詩・一般二部 佐藤法子(神奈川)
 漢詩・一般三部 石原隆夫(神奈川)
 漢詩・一般四部 木屋吉弘(東京)

短歌・一般の部 梅村明彦(埼玉)
 金子筑波(埼玉)
 菊池慎一郎(茨城)

詩舞・一般二部 藤井美由紀(広島)

本年度から、『文部科学大臣賞』『愛知県知事賞』『公財)日本伝統文化振興財団賞』を決める「出場者区分」別の優勝者による吟詠の部優勝者(幼少年の部を除く)6名、剣詩舞の部優勝者8名で本決戦を行う事になりました。審査の結果、吟詠の部で準優勝に打越美和子様が「財団賞」を授与されました。おめでとうご

ざいました。惜しくも入賞を逃されました皆様方も来年を期待いたしております。地元、日本伝統文化吟友会中部地区本部長森川源伸先生、事務局長村上岳峰先生を始め、役員・委員の先生方に厚く御礼申し上げます。尚、日本伝統文化吟友会では、全国コンクールを八地区(北海道・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国・九州)で開催して

おりますので、各地区予選会に技量の一助に出場をお願いいたします。(一社)詩吟朗詠錦城会担当 日本伝統文化吟友会 金子城大

野洲支部吟行会

例年通り11月10日、吟行会を実施しました。今年、天台宗の総本山として知られる大津市の西教寺を訪れることとなり、9時に野洲を出発、一路西教寺に向かいました。1時間余りで到着、本堂を係の僧侶に案内頂きました。

西教寺は、明智光秀の菩提寺としても知られ、境内には、奥方思いであった光秀が建立したと言われる奥方の墓や、光秀は当然の事、一族の墓も祀られております。折しも、来年のNHKの大河ドラマの主人公でもあることから、訪れる人が多く

茨城県芸術祭 第52回 吟詠剣詩舞道大会

令和元年11月17日、茨城県芸術祭第52回吟詠剣詩舞道大会が開催され、合吟コンクールの部に於いて、茨城県本部は今年も優秀な成績を納める事が出来ました。

烈公杯(五人立) 女子 優勝 義公杯(十人立) 女子 優勝 又、コンクール終了後の「剣詩舞」に2名の会員が出演し、企画構成吟舞「たまゆらの恋(静御前)」に海野錦麗香本部長が和歌を、城戸城濤会長が琵琶を

なっています。私達一同は、光秀の墓前にて



披露しました。(水戸支部長 川上錦代)

大合吟をし、光秀を偲んでまいりました。西教寺を後にし、次の目的地へケーブルに乗車し、比叡山延暦寺へと向かいます。

この坂本ケーブルは、全長2100メートルと国内最長を誇っています。到着し延暦寺へ、ここ延暦寺では根本中堂で平成の大修理が行われており、大屋根の吹き替え工事を見学することが出来ました。2016年から10年をかけての大工事現場を目の当たりに見る事が出来ました。この様な貴重な体験をすることが出来、大変意義ある吟行会でした。

(野洲支部・野村城鳳)

日光周遊と 鬼怒川温泉吟行会

錦秋の11月5日、水戸支部では、日頃の疲れを癒すべく日光鬼怒川の旅を行いました。

中禅寺湖では、男体山を間近に1時間の遊覧を楽しみ、華厳の滝では台風直後の、正に飛龍直下の滝を望みながら「望廬山瀑布」を声高く吟じました。東照宮の三態で処世を暗示したと云う三猿の彫刻は愛らしく、お



色直しの済んだ陽明門は、眩いばかりの「白」でした。

三代将軍家光公の霊廟「大猷院」の64畳敷きの拜殿には、水戸公より献上の蓮華の花瓶が一對。又教科書で馴染みの狩野探幽筆なる唐獅子狛犬の図は、ここ拜殿に描かれていました。

宴席に於いては、吟歴50年、満90歳の青砥城行先輩が懐かしき思い出を語り、新会員は目標と希望を語り、正に「詩吟は人の道しるべ」と、絆を強くし錦友の歌で旅を締めくくりました。
(水戸支部長 川上錦代)

第56回 吟道之碑前祭

本年度も、11月の最終日曜日の11月24日(日)、沼津市大瀬崎の吟道之碑前の広場に於いて厳かに執り行なわれました。

当日の朝まで降っていた雨の影響で、碑の前での式典開催が危ぶまれましたが、雨も止んだ13時から、本会の高羽城幹氏の司会で、式典が開始されました。



今回は、山元錦城宗家、城戸城濤会長以下、錦城会からは、55名が参加しました。300段の階段を、竹の杖をつきながら登った先の広場からは、残念ながら富士山は雲の中に隠れたままでしたが、駿河湾が一望でき清々しい気分になりました。
本年合祀された会員は、次の11柱です。



(敬称略)

- 杉野城勲 総師範 広島
 - 渡邊城鉄 大師範 静岡
 - 萩野錦暁 総教師範 広島
 - 小山城将 総師範 広島
 - 松尾錦鑿 総教師範 佐賀
 - 大登城洋 総師範 東京
 - 山口錦山 大師範 愛知
 - 山元城雄 総師範 東京
 - 内村錦宏 総教師範 三重
 - 山本錦蓉 総教師範 滋賀
 - 松尾錦鳳 総師範 長崎
- 今回で、錦城会の合祀者は、434柱となりました。(S)

編集後記

明けましておめでとうございます。いよいよ東京オリンピックの年の幕開けです。
今回は、少し長めの編集後記でお許しください。

皆様のお手元に届いた錦友で創刊以来300号となりました。現在は、1、4、7、11月の年4回の発行ですが、かつては、年6回の発行の時もあったと聞いています。発行に関わった諸先輩方のご苦労は、大変だったと思います。

私にとつて編集という仕事は、全くの素人なので、元編集担当をされていた草薙先生から、最初に言われたことが、『腹を切るな』という事でしたが、なかなか上手く割り付けられず、何度となく『腹切』をしでかしました。

皆様は、錦友を手にとって読んだ後、どうされていますか？ポイツではなく、保存して頂けたら編集に関わる身としては大変嬉しく思います。私の手元には、入会当時の95号から保管してあります。新入会員の欄に自分の名前を見つけた時は、すごく嬉しかったことを覚えていますが、これが400号になるまで精進を重ねて錦城会会員であり続けたいと思います。(S)